

《担当者名》 下村敦司 飯田貴俊 太田亨 才川悦子 田村至 中川賀嗣 橋本竜作 黒崎芳子 榊原健一 福田真二  
森元良太 小林健史 前田秀彦 飯泉智子 柳田早織 葛西聡子 辻村礼央奈

### 【概要】

これまでに学んだ基礎および専門科目の知識を整理・統合し、さらに実践的知識の獲得・定着を図ることにより、臨床実習で学んだ言語聴覚療法を効果的かつ円滑に習得できるよう備える。講義では、学生が言語聴覚療法に関わる問題を作成し、問題作成を通して実践的知識の整理・統合さらに獲得・定着を図る。作成した問題はデータベース化し、コンピュータ・ベース・ラーニング（CBL）により学生が主体的に復習できるようにする。

### 【学修目標】

#### <一般目標>

臨床実習において、医療現場での思考法や技能を効果的かつ円滑に習得するために、言語聴覚療法に関する問題作成を通して、言語聴覚療法の実践的知識を科学的に理解し身につける。

#### <行動目標>

1. 問題作成の際、言語聴覚士養成教育モデル・コア・カリキュラムを使用できる。
2. 問題形式を分類できる。
3. 問題作成のプロセス、さらに一般的留意事項を理解できる。
4. 各疾患・障害の病態生理を科学的に説明できる。
5. 各疾患・障害に対する言語聴覚療法評価の意義、目的、方法を科学的に説明できる。
6. 各疾患・障害に対する言語聴覚療法介入の意義、目的、方法を科学的に説明できる。

### 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業の目的、さらに今後の予定について知る。</li> <li>・言語聴覚士養成教育モデル・コア・カリキュラムを学ぶ。</li> <li>・問題形式、問題作成のプロセス、さらに一般的留意点を学ぶ。</li> </ul>	下村敦司
2 3 8	言語聴覚療法に関わる問題作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各疾患・障害の病態生理について知識および考え方を整理し、確認する。</li> <li>・各疾患・障害の病態生理についての問題を作成する。</li> <li>・各疾患・障害に対する言語聴覚療法評価について知識および考え方を整理し、確認する。</li> <li>・各疾患・障害に対する言語聴覚療法評価についての問題を作成する。</li> <li>・各疾患・障害に対する言語聴覚療法介入について知識および考え方を整理し、確認する。</li> <li>・各疾患・障害に対する言語聴覚療法介入についての問題を作成する。</li> <li>・作成した問題を実際に解き、不適切な点の改訂を行う。</li> <li>・作成した問題はデータベース化する。</li> </ul>	全担当教員

### 【授業実施形態】

#### 面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

### 【評価方法】

課題（問題作成・演習） 20%、定期試験 80%

### 【教科書】

各領域の講義で紹介された教科書および配付資料

### 【参考書】

言語聴覚士国家試験対策委員会 編 「2022年版 言語聴覚士国家試験 過去問題3年間の解答と解説」 大揚社 2021年（出版予定）

**【学修の準備】**

予習は、教科書、参考書あるいは授業で配布された資料を読んで理解に努めること（80分）。

復習は、データベース化した作成問題を解くことにより確認と理解に努めること（80分）。

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

**【実務経験】**

田村至、黒崎芳子、小林健史、前田秀彦、飯泉智子、柳田早織、葛西聡子、辻村礼央奈（言語聴覚士）、飯田貴俊（歯科医師）、太田亨、才川悦子、中川賀嗣（医師）、橋本竜作（公認心理士）

**【実務経験を活かした教育内容】**

医療機関での臨床経験を活かし、言語聴覚士として必要な実践的知識の理解を深める講義を行う。